

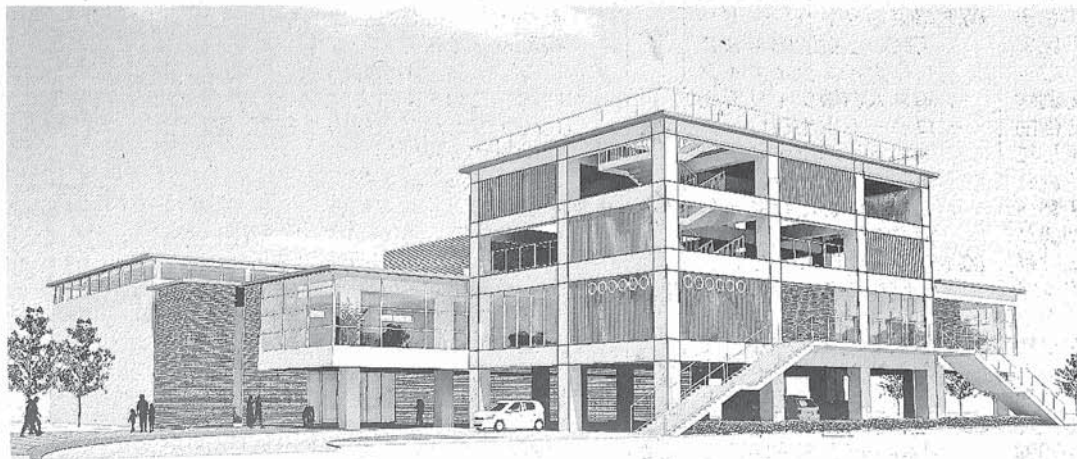
健康寿命100歳を目指し

急速に進む高齢化や自治体で住民の健康を図る取り組みが進められ、紀北町では、平成25年度から28年度にかけて、減らし+10(プラス10)とした健康づくり運動を推進し、関係する関係者の関心な層の取り込みを

健康づくりの拠点

健康増進施設 9月完成を目指す

紀北町健康増進施設は、屋上を津波避難所とし、施設内に通年の温水プール、トレーニングルーム、フィットネスルームを備え、子どもから高齢者まで幅広い世代の健康づくりへの活用を図る。28年8月に起工し、9月30日の完工と新年度



完成イメージ図

中のオープンを目指して工事が進められている。施設は▽津波緊急避難場所▽住民の体力と維持向上、介護予防などの健康づくりの場▽水泳をはじめとするスポーツ振興、交流の場とするコモンセプトで建設。鉄筋コンクリート一部鉄骨造の3階建て、1階部分は駐車場と玄関、中2階に25メートル温水プールと歩行リハビリプール、ジャ

グジー、2階にトレーニングルームとフィットネスルーム、防災設備として地上高8・3メートルの屋上階に退避場所、上部の地上高14・3メートルに津波緊急避難場所を設ける。敷地面積は約5300平方メートル、延べ床面積は約2900平方メートル。

トレーニングルームは、ランニングマシンなど専門器具を使っている。酸素運動、筋力の維持向上、関節の可動域の拡大などの運動を行うフロアで、フィットネスルームは鏡張りのスタジオ形式で、ヨガやバランスボール、ダンス、体操などに活用する。町生涯学習課は「身体を鍛えたい人だけでなく、高齢者の転倒防止、介護予防のための体力づくり講座などを開く」と幅広い活用を目指している。

工事費は8億9532万円で、設計費などを含む総事業費は9億8572万円。財源内訳は学校施設環境改善交付金1億1121万円、合併特別債7億8320万円、一般財源9131万円。現時点での営業時間利用料金などは未定。本年度内に収支計画を立上るといふ。

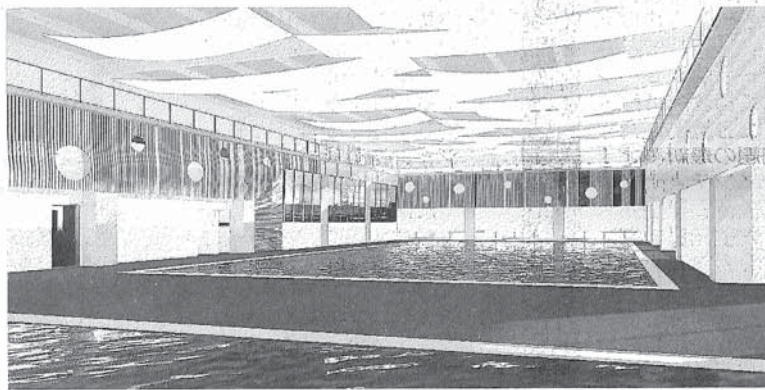
プールは25メートル・7コースの温水プールと長さ18メートル幅5メートルの歩行用リハビリプール。通年営業で町民の健康づくりのほか、町内外のスイミングクラブ会員、水泳部員の練習場としての活用が見込まれている。

近隣地域で公営の25メートル温水プールを備える施設は、大紀町の大内山B&G海洋センター、熊野市の紀和B&G海洋センターの2か所。うち大紀町は冬期は休館する。

学校設備では、潮南中学校が温水プールを備えており、主に海山スイミングクラブと同

水泳部の練習にも活用

校水泳部が練習に利用していたが、平成25年に尾鷲市の温水プール「あいあい市民健康プール」が施設老朽化に伴い閉館したため、尾鷲スイミングクラブや尾鷲中・尾鷲高校水泳部が、冬期の練習に潮南中プールを使う形となっていた。海山水泳協会は「健康増進施設を活用することで、各校の練習時間の改善が期待できる。また潮南中プールは学校施設ということで、これまで一般の日中利用ができなかった。プールを一般の人の日ごろの健康づくりに役立ててもらいたい」と期待を寄せている。



プールの完成イメージ図

紀北町校

会長 伊藤 野藤
副会長 中野
書記 東野
会計 米倉

紀北町教育委員会

委員長 村上 貞
委員 森木 貞
委員 河村 貞
委員 西村 貞
委員 今井 貞

紀北町文化

会長 吹上 嶺
副会長 塩崎 頭
副会長 鬼頭 公
副会長 水田 西
副会長 西田 田

紀北町

紀北町